

# 民報 ゆうばり

# くまがい桂子市議4期目当選!

## 公約をかかげ市内全域を駆け巡る



4期目に挑戦！  
必要な議席です

夕張市の地方自治を担う、市長選挙と市議会議員選挙が4月14日に公示され、選挙戦がスタートしました。  
今回から前回より1減した8名の定数を9人で争う、1名はみ出しの8年ぶりの選挙となりました。

地震や災害への  
危機管理体制を

日本全国で地震や

「2003年の初当選から16年間、途中4年のブランクがありました。若くもお年寄りも安心して暮らせる夕張にしたいーその思いでがんばってきました。」

### 夕張の安心・安全を守れ！消費増税・国保の負担増に反対、平和憲法守れの願い、日本共産党のくまがい桂子に！

財政破綻の国や道の責任を明確に

危機管理の人員体制がとれない、予算もないという状況は脱却するには、方法の一つしかないと思



### 石炭博物館模擬坑道で火災発生！

選挙戦6日目、19日(金)石炭博物館模擬坑道から火災発生のため、選挙カーは自粛して運行を取りやめました。現在も注水が続く鎮火の見通しが立っていません。



19日午前博物館坑口から白煙が…



市の財政破綻に反対、国保の国民負担

そのために、ぜひもう一度議会ですっかりと働かせてください。

安倍政権の暴走ストッパー！

さらに、平和憲法を踏みこむ兵器の爆買いや、消費税増

を増やす計画等、世論を無視した、自民と公明の安倍政権の暴走を止めるのが、7月の参議院選挙です。

日本共産党では野党の統一候補擁立に向けて、着々と準備を進めています。市民と野党の共闘で、安倍政権を退陣に追い込みましょう」と連日訴えました。

4期目6位で  
当選しました



くまがい桂子市議当選に  
喜び合う仲間の拍手



日本共産党 夕張市議  
くまがい桂子

4月22日、4度目の市議会議員当選証書をいただきました。

ウソや暴言を繰り返す安倍政権を告発し、「国民そつちのけ」の安倍政治に対する審判と、自民公明が主導する地方政治を、暮らし・福祉優先にチェンジすることを訴え、日本共産党は全国で1001議席を獲得しました。

ご支援、ご支持をいただいたみなさんの願いにこたえるべく、公約実現に向け全力で奮闘する決意です。

選挙期間中には、石炭の歴史村博物館の模擬坑道で火災が発生し、シホロカベ川の水を注水。鎮火も博物館のオープンも見通しが立たない状況が続いています。坑内で溶接など、とんでもない！そんな元炭鉱マンの方たちの怒り—そんな初歩的なミスが原因

なのででしょうか：

また、2か月前の2月20日ころには、元大夕張リゾートが香港ファンドに4施設を売却したとの報道がありました。その後どうなったのか、雇用はどうなるのか：詳細もわかりません。

不安なのは夕張市内の状況だけではありません。

いま日本は、消費も賃金が増えたく伸びず、3月には内閣府も景気が後退傾向にあることを認めました。

そして高額な国民健康保険料。所得の2割近くが保険料にとられる家庭も多く、命が守られるどころか、暮らしが追い詰まられています。

くずさんの  
夕張歴史散歩 (110)

明治維新26／朝鮮植民地支配 ⑩

佐藤政次郎とは

この髑髏を採集した佐藤政次郎とは、どんな人物だったのか。

北大では徹底した調査を始め、韓国の研究者の協力もあり共同の研究・交流がすすみます。関与すると思われる「佐藤政次郎」は数人いて、個別に調査した結果、北大の前身「札幌農学校」出身の農業技師で、一九〇六年「韓国統監府勸業模範場木浦出張所」\*2に勤務しています。

木浦は珍島に近く、ここで日本軍が梟首した東学農民軍の指導者の遺体を「採取」したと思われます。(遺体の指導者の氏名は、遂に不明だった)

遺骨をめぐって

この遺骨をどうするか。発見したから簡単に返す、という訳に行きません。「返還」という言葉にも、大きな反発があります。

当然、日本の国立大学での遺骨の意図的な蒐集と放置については、日本政府は謝罪しなければなりません。しかし、いまだに謝罪はありません。

翌一九九六年、ようやく北大と韓国との話し合いがまとまり、結果「共同返還」でなく「一緒に奉還する」との表明で一致し、五月二九日に北大で「奉還式」が行われました。

このとき、韓国の遺骸奉還委員会常任代表「韓勝憲」による「告由文」\*1は、日本政府に対する痛墳と厳しく責任を語り、しかも礼儀にかなったものでした。

朝鮮人慰安婦問題や徴用工問題を正しくみる上で、この告由文は心打つものがあります。

\*1 「明治日本の植民地支配」井上勝生 前号も同じ

\*2 当時、韓国では「日本綿花栽培協会」(原敬主唱)の事業が行われ、韓国の陸地綿花生産に破壊的影響を与えます。



島山和也「かけある記」  
前衆議院議員  
島山 和也

さあ、参院選へ

知事選の告示から一カ月に及んだ地方選では、日本共産党の候補者へ大きなお力添えをいただきました。知事選・札幌市長選を市民と野党の共闘でたたかえたことも、大きな財産になりました。掲げた公約の実現に、私も新しい地方議員団と力をあわせたい。

惜しくも議席に届かなかった候補の訴えも、多くの方の心に響いたはず。党の大先輩から「たたかいにムダなものなど一つもない」と言われたことを思い出します。きつと得票数以上に、信頼を寄せてくれた方が必ずいます。

来月には石狩市、六月には美唄市・深川市の市議選挙がおこなわれ、いよいよ参院選に突入。数日もすれば告示を迎えます。地方選のさなかにも「復興より大事なのは自民党の議員」と発言して五輪担当大臣が辞任するなど、安倍政権のおごりが目に余りました。胆振東部地震の被害も残されたなか、こんな発言が出るなんて本当に腹立たしい。

「怒るべきときに、怒らないといけない」と、地方選では私も強く呼びかけました。あきらめないで力を合わせれば安倍政権を追い詰めることができます。沖縄の衆院三区補選でまた示してくれました。理不尽な政治を許さないエネルギーは、北海道にもあるはず。

桜が咲く前に夏のような暑さが来たり、冷たい雨に打たれたりもした一カ月。読者のみなさん、少し休んでエネルギーを蓄えたら、引き続き日本共産党の躍進と、はたやま和也の議席獲得にお力をお貸しください。